



国際ロータリー 2020-2021 年度 前橋北ロータリークラブ会報



2020年7月20日 第1685回

会長 川口 武志 幹事 塚田 憲利
会場監督 嶋田 委員

◇ロータリーソング 奉仕の理想

◇会員数 77 名 ◇出席率 77.04 %

◇幹事報告 塚田幹事

理事会報告・群馬県高校野球大会の冊子について・九州豪雨被害の支援金の件

◇委員会報告 親睦委員会 上村親睦委員長 7月27日(月)新年度最初の夜間例会

◇ニコニコBOX

茂木修一会員…新会長、おめでとうございます。

◇会長の時間 「会員必携」

先週の例会時にも熊本地域豪雨災害義捐金として会員1人500円の寄付をする話をしましたが、先輩方より500円位では足りないだろうというお話を頂きました。このコロナ禍で家屋浸水被害や経済的にも大変な状況で我々も現地に行くこともできませんのでぜひ、お気持ちで構いませんので少しでも多くのご寄付を熊本地域の方にお送りしたいと思います。

今日はロータリーについて詳しく知るために、7月最初の例会で年度ごとに配布されます**地区会員必携**についてお話をしたいと思います。

皆さんは当クラブに入会したのと同時に国際ロータリー2840地区にも加盟をしています。この地区会員必携は2840地区のすべての会員にお渡ししているものです。内容はR1会長のメッセージや2840地区ガバナーの方針、各委員会方針、地区行事のすべてのスケジュールが記載されています。

この冊子の後ろの方にクラブ現況指数というのがあります。R12840地区は6分区、45クラブに分かれており、会員数やその人数の上限、R財団や米山奨学などの寄付に対しての寄付金額を記載しています。ご存知の通り第1分区は前橋の6クラブです。2019年7月1日現在の会員数が2019年7月1日現在

前橋RC121名、 前橋西RCは61名、 前橋市東RCは47名、
前橋北RCは79名、 前橋南RCが41名、 前橋中央が23名。

前橋北ロータリークラブは平均年齢も、55.8歳と。若さの平均値でも多分4番手か5番手であろうと思います。

そして皆さんから回収をさせて頂いておりますご寄付は、寄付の目標値である

R財団1人150ドル 米山記念奨学寄付1人16,000円

当クラブの会員の方のおかげで全てクリアをしています。

今日は会員必携という事で私も詳しくありませんが、少しでも見ていただくと、地区の各委員会の仕組みや行事があることがわかります。そして世界にロータリークラブが35,890クラブあり、1,189,466人の会員がいるという事も載っていますので、ちょっとお目通しを頂ければと思います。



◇会員卓話 嶋田均 会員 群馬県eスポーツ連合について

実は私は6月19日付で上毛新聞TRを退職しました。上毛新聞本社で35年、上毛新聞TRで9年、合わせて約45年、上毛関連にありました。

大変惜しまれながら退職をしたわけなんです…（笑い）

涙を浮かべる女子社員が多数いたことをご報告させていただきます。

その後、何をやっているかといいますと1年ほど前からeスポーツについて勉強しておりまして今年の2月に群馬県eスポーツ連合を社団法人として立ち上げました。皆さんeスポーツをご存知でしょうか？



eスポーツといいますとエレクトロニクススポーツといましてパソコンやスマホでゲームをします。これが競技性の高いゲームで競い合うゲームです。日本は先進国と言われている中で一番遅れています。世界的にみるとアメリカやヨーロッパ、中国、韓国、アジアでは非常に盛んに行われていて大きなスタジアムで大きな大会が開催されております。

昨年の大会でもっとも優勝賞金が高かったのが、アメリカで開催された格闘系のゲームで、優勝賞金は22億5千万円とすごい金額となっています。東南アジア等の大会では常に優勝賞金が1億円を越えています。日本はなぜ遅れているかということ、スポーツとゲームを分けてきたんです。スポーツは肉体的な精神、日本の武道の精神に近いものがあります。日本以外は全部、ゲームなんです。サッカー、野球、チェス、将棋もみんなゲームです。

日本ではゲームソフトはゲーム機に合わせて作ります。海外はパソコンに合わせてスタートするのが多いんです。ですから日本のIT関係が遅れているのは子供のうちからパソコンを使う機械が少ないようです。昨年、ソニー生命が中学生に将来なりたい職業アンケートを取ったところ1位ユーチューバー、2位プロeスポーツプレイヤー、3位ゲームクリエイターでした。パソコンに関することが多く今後、eスポーツが盛んになっていくと思われまます。

また、高校でも部活動が盛んになる感じがしています。私どもの色々なイベントに高校の先生が来てこのゲームの部活をやりたいとか相談に来ています。専門学校や大学でも次年度から学科等を設けるところもできてきています。子供達は特に小中高、10代20代30代の人たちはテレビや新聞を読む機会が減っており、情報等は大体、オンライン上で見えています。そのオンラインの中にゲームがあり、ゲームのことは本当に詳しくなっています。

そしてこれからどういう風に進んでいくかということ、野球チームやサッカーチームを持っている会社は限られた大手の会社（銀行等も）、あるいは本当に好きな人たちが集まって同好会的なチームがありますが、これらのチームに入るには小学校から野球をやっていて、高校、大学でも野球をしていた人が殆どです。サッカーに関してもそうです。その点、eスポーツはタイトル（競技）も色々あり、数人でチームが作れてパソコンがあれば、年齢も関係ありません。みんなが平等にできるんです。先週18日の土曜日にオンラインでぷよぷよの大会があり、準優勝は中学1年生の女の子。優勝は国体代表で東京の大会にでた群馬大学院生でした。小学生でも大人と対等にできる。

eスポーツは間口がとても広く、これからは企業も色々なタイトルのゲームチームを作ることができると思います。将来的には企業対抗eスポーツ大会、野球であればパワープロ、サッカーではフィファ、ウィニングイレブなどがありそういった大会もできますので、楽しい時代になるのではないのでしょうか。

今、お手元に群馬県eスポーツ連合の組織や群馬県をeスポーツのメッカにしようという動きの中で群馬県eスポーツ連合を応援していただけるたらと賛助会の募集の用紙をお配りさせていただきました。もしご興味のある方がいらっしゃいましたらご説明に伺います。もうすでにこの会から10社ほどご協力を頂いております。